

# 編集後記

予定としては隔月刊行となっているが、少しばかり逆り気味となり申訳なく思っております。読者からもときどき催促され、早く追つきたいとあせっております。そのためという理由ばかりでもありませんが、今号の頁が少なくなったのは残念でした。

決して苦勞を売物にする訳ではありませんが、業務の片手間に雑誌を発行するということは全く容易なことではありません。それだけに月遅れになっても頁が少くても発行したときは嬉しいし、さらに読者から原稿や投書等が来るときはもっと嬉しく思います。

先日大島正満氏から便があり、氏が時々東宮御所へ御進請の際にはこの雑誌から話題をとり皇太子殿下もまたこの雑誌にご興味をもたれているとのことでした。

今号はほとんど研究報告的な記事が多くなりましたので読み疲れを愈す意味で伊藤利孝氏の「深夜の饗宴」を載せました。

何となくスッキリとした食欲をそそるような話ですが魚類学とは無関係な人が食べる前に貝殻の線を一本づつ数えて文献の記載と合っているかどうか確めたとは誠に恐れ入った次第です。

江口氏の「あゆの話」の前半及大東他の「シシャモ」は意外なものが意外な処にいたという感じで一寸謎めいていて面白い。広崎氏の水族館における魚病対策の辛さがしのばれますが、文中そこはかとなく魚を飼う楽しさが伺われる。それが水族館をみる者に一層楽しさを感じさせる。

阿部華三氏は道南の一地域での魚について相変らず観察に余念がなく、関係者の大いなる参考となっている。昨今は水質汚濁の問題がやかましい折でもあるので、今号は氏の観察によるBHC剤の影響を載せました。

比佐氏は他に全く例をみない珍しい観察を投稿してくれた。16頁の「落雷が……」それである。人が恐れる天変地異も氏にとつては奇遇の機会としてとらえる態度には感服の至りである。

## 「魚と卵」編集委員会

久崎 外 員 吏 術 志 嶋 尾 崎 官 技 農 林  
俊 尾 寺 員 吏 術 晃 有 沢 長 尾 崎 官 技 農 林

札幌市中の島 (TEL 代表 (83) 0111)

夫 健 原 三 場 長 夫 健 原 三 場 長 夫 健 原 三 場 長

印刷

夫 健 原 三 場 長 夫 健 原 三 場 長 夫 健 原 三 場 長

発行

北海道さけ・ますふ化場  
北海道立水産孵化場

夫 健 原 三 場 長 夫 健 原 三 場 長 夫 健 原 三 場 長

印刷

夫 健 原 三 場 長 夫 健 原 三 場 長 夫 健 原 三 場 長

23-8-13

昭和38年11月25日印刷

昭和38年11月30日発行

第14卷第6号

北海道さけ・ますふ化場  
北海道立水産孵化場